

発行日：2025年7月22日

環境経営レポート (株)永井製作所

<ご挨拶>

株式会社永井製作所は、1955年の設立以来アルミダイカスト工業一筋に営んでおります。1991年に埼玉県戸田市から群馬工場へ2019年11月に加須工場に生産拠点を移し現在に至っております。ダイカスト工業は、多量のエネルギーを必要としますので環境負荷が重視される昨今、環境負荷軽減に努めるべくエコアクション21に取り組む事と致しました。

取組んだ結果を「環境経営レポート」にまとめましたので、ご高覧頂き、ご指導・ご指摘等宜しくお願い致します。

株式会社永井製作所

代表取締役社長 永井 崇

目 次

I. 事業活動規模	P 1
II. 環境経営方針	P 2
III. 実施体制	P 3
IV. 環境経営目標とその実績	P 4
V. 環境経営計画の取組計画と評価	P 5
VI. 環境関連法規の遵守状況	P 6
VII. 代表者による全体評価と見直しの結果	P 6

I. 事業の活動規模

1. 事業者名及び代表者名

株式会社 永井製作所
代表取締役社長 永井 崇

2. 所在地

加須工場 : 〒349-1213 埼玉県加須市栄293番地12
本社(登記上) : 〒335-0016 埼玉県戸田市下前2-8-19

3. 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

代表責任者 代表取締役社長 永井 崇
環境管理責任者 工場長 稲田 和男
担当者 エコアクション21事務局 堀口 奈緒子
連絡先 TEL : 0280-33-8282
FAX : 0280-33-8283
URL : www.nagai-ss.co.jp

4. 事業の内容 アルミダイカスト部品の製造

5. 事業の規模

レポート対象期間

		単位	2024年度 2024年4月～2025年3月
従業員		人	27
床面積	敷地	m ²	3,967
	建物	m ²	1,866

6. エコアクション21対象範囲(認証・登録範囲)

株式会社 永井製作所 全組織・全活動

【本社は登記上の本社であり、事業活動はおこなっていない。生産等の活動は、全て加須工場でおこなっている】

Ⅱ. 環 境 経 営 方 針

[基本理念]

(株)永井製作所は、地球環境保全の重要性を認識し、地球上の限られた資源・エネルギーの有効利用と、生産活動で生じる産業廃棄物の削減を図り、経営の一環として環境保全に取り組めます。

[基本方針]

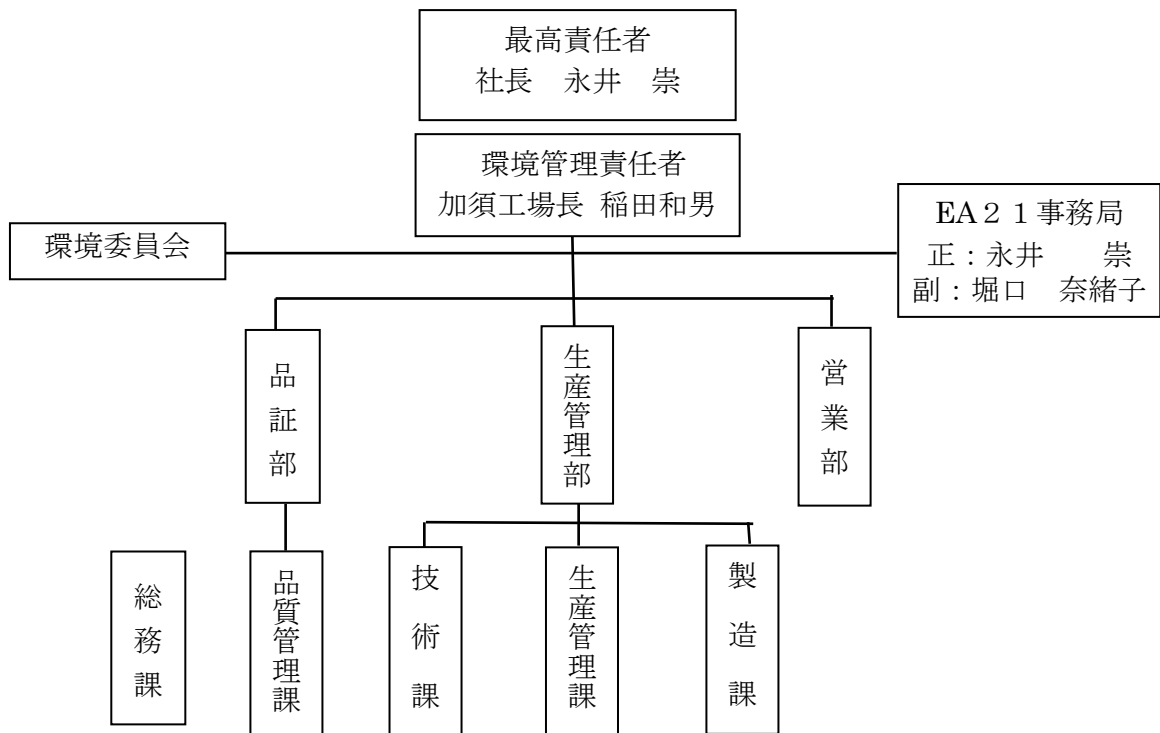
次の事項を重要な課題として、環境経営目標を設定して効果的な取組を行います。

1. 当社は、アルミダイカスト産業を営む中で、材料を溶解する為に多くのエネルギーを必要とします。これらのエネルギー及び資源の有効利用を目指し、下記の通り宣言します。
 - (1) CO₂排出量削減に向け、LPG及び電気の有効利用に努めます。
 - (2) 生産活動で発生する廃棄物は、再生利用率を高め、最終処分量の抑制に努めます。
 - (3) 水資源を大切にし、節水に努めます。
2. 環境保全活動は、環境経営目標・環境経営計画を策定し推進します。策定した目標・計画は、定期的または必要に応じて見直します。
3. 事業活動に関係する、環境関連法規その他公的規制事項を遵守します。
4. 環境経営方針は、全社員に周知するとともに、社員の環境教育を行い、環境に関する意識の向上を図ります。
5. 環境管理に関する情報は、社内外に公表し、地域社会とのコミュニケーションを図ります。

～ この環境方針は、社内外へ公表します ～

制定 2011年4月2日
改定 2021年6月1日
株式会社 永井製作所
代表取締役社長 永井 崇

III. 実施体制



職名	役 割
最高責任者	代表取締役社長 永井 崇 ① 環境管理責任者をはじめ、必要な責任者を任命する。当該責任者には、現在の責務に関わりなく、責任と権限を明示する。 ② エコアクション21の構築・運用・維持に必要な経営資源（人材・資金・機器・設備・技術技能を含む）を準備する。 ③ 環境経営方針を策定する。 ④ エコアクション21の構築・運用に関する情報を収集し、環境経営方針・環境経営目標をはじめシステム全体の見直しを行い、必要に応じて是正する。
環境管理責任者	① エコアクション21に関する経営資源を合理的・効果的な運営を図り、目的を達成する為に環境委員会を運営する。 ② エコアクション21の構築と運用を円滑に行い、最高責任者による見直しの情報として、構築・運用に関する情報を最高責任者に提供する。
事務局	正：永井 崇 副：堀口 奈緒子 ① 事務局として、環境管理責任者を補佐し、エコアクション21に関する実務全般を所管する。
環境委員会	① 最高責任者・環境管理責任者・事務局・環境推進委員で構成し、最低年に一回は召集する環境経営目標の設定、環境経営計画の策定及び進捗に関して協議する。環境管理責任者が必要と認めたものは出席することができる。

IV. 環境経営目標とその実績

1. 2024年度の環境経営目標と実績

環境経営目標	基準値	今年度目標			次年度及び中期計画		
	2022年	2024年			2025年	2026年	2027年
	実績	目標	実績値	目標達成状況	目標	目標	目標
二酸化炭素排出量の削減 (Kg-CO ₂)	876721	2022年度の実績に対し0.9%削減	592979	達成 32.4%削減	2022年実績に対し1.2%削減	2022年実績に対し1.5%削減	2022年実績に対し1.7%削減
廃棄物の削減 (kg)	12834	2022年度の実績に対し0.9%削減	10270	達成 20.0%削減	2022年実績に対し1.2%削減	2022年実績に対し1.5%削減	2022年実績に対し1.7%削減
水使用量の削減 (m ³)	7532	2022年度の実績に対し0.9%削減	3770	達成 49.9%削減	2022年実績に対し1.2%削減	2022年実績に対し1.5%削減	2022年実績に対し1.7%削減
化学物質の把握	—	成分・検査報告書の保管	—	達成	化学物質の管理	化学物質の管理	化学物質の管理
不良率の低減 (本業に関する目標)	—	2.37%以下	2.80%	未達 2.80%となる	不良率の削減	不良率の削減	不良率の削減

※購入電力の二酸化炭素排出係数はリコージャパン(株) R5年1月24日環境省、経産省公表0.468 (kg-CO₂/kWh) を使用した。

2. 主な環境負荷の実績 (総量)

環境負荷項目	2022年	2023年	2024年
CO ₂ 排出量 (kg-CO ₂)	592,607	555,898	592,979
廃棄物排出量 (t)	12,834	11,930	10,270
水資源投入量 (m ³)	7,532	6,172	3,770

V. 環境経営計画の取組計画と評価

取組計画	評価
二酸化炭素排出量の削減 ① エコドライブの推進 ② 照明・PC電源不要時のOFFの推進 ③ エアコンの清掃 ④ アルミ溶解のLPGの削減	①エコドライブの推進はできている。 ②照明・PC電源不要時のOFFは継続して徹底できている。節電表示をしている。 ③ エアコンの清掃はできている。 ④ アルミ溶解釜の上蓋保温は検討した結果不可能と判断。
廃棄物排出量の削減 ①. ゴミの廃棄量の削減 ②. 委託業者との契約書及びマニフェストの管理の徹底	① と②は継続して徹底している。
水資源投入量の削減 ① 揚水量の削減 ② トイレの節水 ③ 地下水の削減	②トイレの節水の他に、手洗い場に節水表示をしている。 ※上水に関しては、2025年1月～3月の期間、漏水していた為、高い数値となっている。(2025年5月修理済み) ③地下水は夏場以外コックを閉めることで大幅に削減ができている。
化学物質の把握	顧客要求に対応して材料、副資材のSDSを入手し提出した。
不良率の低減	外作品での不良が多かったことや、新規量産時の不良が発生したことで目標未達となる。

《次年度の取組について》

2024年度も基本的な節電、節水、廃棄物の分別等の活動は継続する。ただし、2025年度に漏水があった為、市水メーター確認を毎月忘れないようにすることとする。又、不良率削減については、生産と品質管理で協力しあい、新規、外作品の不良率を低減することを徹底していく。

VI. 環境関連法規の遵守状況

1. 当社に適用となる主な環境関連法規

No.	法律・条例その他の名称	該当する活動	遵守状況
1	自動車から排出される窒素酸化物	Nox. PM 規制地域では、規制をクリアーしない車は使用しない。	遵法
2	浄化槽法	定期点検及び法令点検の実施	遵法
3	騒音規制法	特定施設の届出・基準値の順守	遵法
4	振動規制法	特定施設の届出・基準値の順守	遵法
5	廃棄物の処理及び清掃に関する法律	1. 委託業者との契約 2. マニフェストの管理及び交付状況の報告 3. 保管基準の順守（分別・掲示板等）	遵法
6	労働安全衛生法	1. 安全管理者及び衛生管理者の選任、委員会の設置及び開催 2. 作業主任者の選任 3. 健康診断の実施	遵法
7	消防法	1. 消防用設備の設置及び定期点検 2. 防火管理者の選任及び訓練の実施	遵法
8	フロン排出抑制法	3カ月に1回の簡易点検の実施	遵法

2. 環境関連法規への違反はありません。尚、関係当局より違反などの指摘はありません。

VII. 代表者による全体評価と見直しの結果

不良率の低減に励んでもらいたい。受注が増加すれば二酸化炭素排出量が多くなるため、不良作製は利益率低下や、無駄な二酸化炭素排出につながるため、極力抑制を。

朝の初品の点検や確認を重点ポイントとして行動してもらいたい。

各担当者で環境についての知識向上等、都度必要に応じて対応してください。

株式会社 永井製作所
代表取締役社長

永井 崇